

<別 添>

市町村の分布から見る現状

全国学力・学習状況調査の調査結果を道民の皆様に分かりやすく伝える方法の一例として、平成21年度に引き続き、北海道（合算）の結果について、道内の178市町村（札幌市を含まない）の各教科における平均正答率を度数分布等で示し、全国との関係や道内の状況を視覚的に表した。

グラフの見方

(1) 平均正答率の度数分布

(2) 市町村内の学校間の平均正答率の散らばり

- 市町村を単位とした各教科における平均正答率を度数分布で示している。
- 縦軸の数値は市町村数、横軸の数値は平均正答率を5%の幅で示している。

- 各市町村内の学校で、平均正答率が最も高い学校から最も低い学校の数値を引いた差をポイントとして示している。
- 縦軸は平均正答率の差（最高－最低）のポイント、横軸は(1)のグラフの階層に準じて平均正答率の幅を示している。

グラフの活用

- 児童生徒の学力向上のためには、保護者や地域住民が、調査の内容や結果をよく理解し、学校や地域の課題を共有した上で、連携及び協力した取組を進めることが大切である。
- そのため、各市町村教育委員会や学校においては、義務教育の水準の維持向上の観点などから、右図のように全国や全道との関係を示したり、各市町村内の学校間の状況を分析したりするなど、保護者や地域住民の側に立ち、分かりやすい公表や説明の工夫に努める必要がある。

